

## 「知事との元気まるごとトーク」(令和4年11月28日開催)

「知事との元気まるごとトーク」は、知事と地域で元気に活動している団体等の皆さんが、青森県の未来を創るために直接意見交換をする場です。

令和4年度3回目の「知事との元気まるごとトーク」を令和4年11月28日(月)に「外ヶ浜町中央公民館」(外ヶ浜町)で開催しました。

当日は、東青地域県民局管内の3名の方にお集まりいただき、「上磯の生業と暮らし～未来を見据えた地域づくり～」をテーマに意見交換を行いました。

当日の概要をお知らせします。

### 当日の出席者

外ヶ浜町美化ピカ委員会	会長	柳谷 志野さん
蓬田村社会福祉協議会	事務局長	田中 利明さん
今別町	地域プロジェクトマネージャー	周布 祐馬さん

### (知事)



改めまして、こんにちは。

ここ2年半、どこにも営業に行けなくなっていたものですから、切れているチャンネルをつなぐといったことで、最近はこちらを回っています。回ってみてしみじみ思うことは、青森県は、意外といろいろなことにチャレンジして、いろいろなことが始まってきたということです。特に起業創業をどんとやるようになってから、いろいろな勢いといえます

か、県民の皆さんが自分自身の仕事と人生とチャレンジ、これが回り出してきたという気がします。次の世代、次の時代への期待が、高まっているという感じです。

農業もすごく強くなっていますが、漁業についても、作り育てるということ、言い続けてきました。漁港そのものを使ってどんどんやろうということで、それも具体化してきて、いろいろなことが動くようになってきました。やっぱり、青森ってなかなか面白そうじゃん、良さそうじゃん、何かここでやっちゃおうという方、こういう方々がどれだけ集まってきてくれるか、あるいは地元で動き出してくれるかということだと思っています。

十何年も前から、青森県型地域共生社会という話をしてきました。2025年に向かってとんでもなく高齢化、要するに人口が減る、そうすると役場とか、あらゆる公共機関、人手が減るわけです。今までだと、どの地区は誰と、割り振っていろいろなことが出来ましたが、そういうことも出来なくなってくるということを市町村にもずっと言い続けてきました。最初はなかなか動き出してくれませんでした。外ヶ浜町の、上小国は、早い時期からそのことに賛同してくれていろいろなことをやってくれていました。そういった準備をしてきたことが、「さあ、やるぞ」

ということで出てきていると思っています。

東京以外は、人口減少社会であり高齢化社会であります。IoTがどんどん進んできて、直接会うことは一番贅沢で、嬉しいことではあります。会わなくてもいろいろなことが出来るというのが、コロナのお陰で実証されてきて、実は、生活と文化と具体の経済生活が変わる大きな節目であるということを感じていました。

今日の3人は、そういった、変わる時代の中で、自らチャレンジしてくれている。この上磯でチャレンジしてくれている。いくら新幹線の駅があろうと、何があろうと、やっぱり上磯は、自分が知事になって産業興しや、高齢者のケアを含めて、とてもきついなということを、首長さん同様に感じているところでしたが、そこにこの3人がいてくれる。大いに期待しています。

今日は、皆さんの肌感覚で、現場で感じていること等を、私だけでなく、県民局、それから具体の政策、施策を動かしている本庁からも職員が来ていますので、そのメンバーにじっくりと聞かせていただいて、意見交換を可能な限りできたらと思っています。

この3人がいてくれて良かった、上磯に。自分はそう思っています。ここからだよ、あなた方の行動1つ1つが次の時代に間違いなく影響を与えるんだということを自覚して、皆さん自ずと感じていると思いますが、さらに、投げ出さず、諦めず、絶対にここで皆がより良く生きられるんだという、そういった姿を作っていくために一歩、二歩、三歩、こういう感じで進んでくれたら、本当に嬉しいと思っています。

今日はよろしくお願いします。

(東青地域県民局長)

本日の意見交換のテーマ「上磯の生業と暮らし～未来を見据えた地域づくり～」の企画理由について説明します。

上磯地域は、陸奥湾や津軽海峡に面した豊かな自然、それから海の幸、山の幸といった食の資源のほか、大平山元遺跡、義経伝説、太宰治ゆかりの名所、荒馬祭りなど、古代から現代までたくさんの歴史・文化を有する素晴らしい地域です。

しかしながら一方で、県内でも特に高齢化、人口減少が進行している地域で、住民の生活機能の維持や、若者の定着、産業振興等に関する様々な課題を抱えております。

当県民局では、市町村の皆様と連携しながら、地域共生社会の実現に向けまして、住民参加による地域づくり、移住促進に向けたPR、特に今年度は、女性目線に立ったPRを進めております。それから、観光・食産業の情報発信などに取り組んでいるところです。

こうした取組の中で地域の魅力を大切にされて、地域を何とか守っていかうと活動している人たちに私たちは出会う機会があります。

本日は、当県民局が出会った方々の中から、上磯地域において様々な分野で精力的に活動され、地域を支えていく大切な人財である御三方に来ていただいておりますので、その想いや活動について語っていただき、上磯地域の未来に向けて活発な意見交換をさせていただきたいと考えております。

本日の意見交換を踏まえまして、地域県民局の事業はもとより、県政全般に皆様の貴重な意見



をいただきながら、今後も一緒に持続可能な地域づくりを進めて参りたいと思います。

本日は、最後までどうぞよろしくお願いいたします。

(柳谷志野氏)



皆さん、こんにちは。そして、初めましての方々もたくさんいらっしゃいますが、柳谷志野と言います。

2021年度の「青森県女性ロールモデル事例12」に選んでいただきまして、ありがとうございます。

私が生まれてからの全てを隠さずに全部報告させてもらいました。裸の状態をホームページに載せた状態ですが、それに選んでもらえたというのもすごく私の誇りに、光栄に思っております。

また、これから、活動される女性の皆様も、そして、子どもたちも、町の皆さんにも何かお力になれるようなことが出来たらいいなと思っております。

私は、令和元年に青森市から移住しました。そして、2年前、外ヶ浜町美化ピカ委員会を設立しました。この美化ピカ委員会ですが、元々は、私一人でやっていた活動をSNSを使ってPRした結果、町外からも参加する方が多くなり、そして、町内外の参加者で町の観光地の清掃活動、例えば、さい沼や観瀾山の草刈り、あとは海岸清掃、今別の方も海岸清掃等をさせてもらいました。そして、おもてなし活動ということで、むつ湾フェリーさんの見送りの旗振り、やっぱりコロナ禍で何をしたいのか分からない時期だったので、ここから出発するフェリーの皆さん、乗客の皆さんもそうですが、運航に携わっている皆さんを元気づけたいなという気持ちがありまして、自分の持っている旗で協力してくれる人と一緒に応援していきたいと、その気持ちで今も続けております。

そして、今年、上小国のいきいき地域づくり検討会のメンバーとなりました。元気な上小国の皆さんを私も一緒に応援していきたいと思っております。

そして、この活動を通じて感じることもなんですが、まず、私が移住した時のテーマとして、「外ヶ浜を楽しむ」というテーマで自分がこの土地で出来る可能性、そして、この地域の可能性を発掘していたらすごくいいんじゃないかなということを考えて、それを探しながら生活していました。

そうしているうちに、やっていることが良いことだということを皆さんに認識してもらうことができました。でも最初から良いと思われていなかったんです、実は。変な人、来ているな。一人で何やっているんだろうなって。この人、大丈夫だべか？という感じで、多分、見られていたと思います。

それが、私もやりたかったんだという人が、後から後から声かけてくださって、今の活動につながっています。

そして、自分一人で悩んでいても仕方ないので、役場に相談に行きます。毎週、役場に行っていたと思います。出勤簿をつけても良いぐらい行きました。たくさん伝えたいものがある、変えたいものがある、こうして欲しいというのを役場の皆さん、私の意思を認めてくれて、そして、迅速に動いてくれました。私は時間がかかるだろうなと思っていましたが、役場が早くに展開してくれて、とても良い結果につながっております。

感じたことは、周囲の理解と、あと役場との連携の強さ。本当にこの協力というのありがたいと、私は思っております。

県と取り組みたいことに入ります。

外ヶ浜町美化ピカ委員会では、J R盛岡支社の許可を得まして、蟹田駅前休憩所観光プロジェクトを進めております。

例年やっています雪灯籠、小さい可愛い雪灯籠、バケツをひっくり返して蝋燭を入れているもので、今までなかったことです。三角の屋根のところにはイルミネーションを付けました。このイルミネーションは、午後4時に点灯します。大体4時になると暗いですからね。

そして、蟹田駅に到着する最終列車が夜11時なので、11時にスパッと切れると悲しくなっちゃうから、12時消灯ということでタイマーを付けております。なので、最後に駅に到着した皆さんも明るいままでお家に帰ることが出来ると思います。

蟹田駅が津軽半島の観光窓口となるような取組を考えているので、県には、蟹田駅の利用者が増えるような取組をして欲しいなど。ただ、蟹田駅を利用されるお客様からは、ホームに降りてから階段を上らないと出口に行けないという話を聞きます。また、この階段は非常に急です。この辺りは、大体、50%以上が高齢者なので、この橋を渡ってホーム出口に着くまでには大分時間がかかります。そして、接続のバスに乗ると、トイレに行っている時間がないと、よく言っていました。まず、この上り下り、私の両親も80歳を過ぎているんですけども、今年、蟹田に来て、この階段が大変だと言っておりました。

駅のホームから階段を使わずに駅正面出口に着けるようになれば嬉しいなと思います。これが多分、利用者の、高齢者の皆さんの一番の切なる願いです。

また、平館地区に関してですが、町内でもすごく公共交通手段が少なく、高齢などの理由で運転ができない人とか、地元の学生にとっては、やっぱり近隣への移動や青森市への通学もすごく大変です。苦勞しております。

平館の交通面でも津軽半島地域の交通弱者への支援に向けて尽力していただければ嬉しいと思います。

もう1つ、近年、高齢化率が下がらない状況ですが、都会での仕事とか生活に疲れた方々、社会人の方々などが、青森に来て自然とか土とか海とかに触れて、そこで作物を作って、宿泊しながら農業のノウハウを覚えて、そして自分の畑を持ったり、漁師になったり。そうやってゆくゆくは定住してもらえるような、ファームステイを東青地域でやるのはどうでしょうか。漁業でもできると思うし、空き家対策にもなると思うので、自然豊かな青森県に住みながらリモートワークしたり、あるいは、本格的に農家や漁師になるのを人生の選択肢に入れてみると、また、人生も広がるし楽しいかと思えます。

私もこれから投げ出さず諦めずに頑張ります。

(知事)

お話を伺って、太宰治の小説「津軽」の中村君のような、怒涛の会話、次々たる行動といえますか、中村君が、また、蟹田に現れたと、そういう気持ちでございます。そういう方がいてこそ、地域興しが始まっていくんだということ、本当にそう思っていました。やっている行動が、まさしく中村君がやっていたのと同じように、次々と自分の故郷を良くしようということであります。

そこで、県と一緒にということいろいろお話がありました。

まず、雪灯籠についてですが、17時に着く電車が灯りに迎えられて、家に帰れるってすごく良いことで、着いたら全部真っ暗だったら、暗い気持ちになりますもの。本当に良くやってくさっていると思っていました。

今、浅虫温泉駅を何とか直しているんです。階段がきついものですから。

駅の整備を所管するJRから、話をちゃんと聞いてきていたので、後で担当の交通政策課の方から説明を少しさせていただきます。

それから、交通体系の話がありました。地域共生社会を進めていくにあたって、課題は何かというと、本当に移動なんですよ、移動。移動と弁当と言うと変かも知れませんが、要するに食べるものをどのように安定的にお渡しできるか。道の駅なんかは、それを逆に使って、物を納めているところがあるじゃないですか。集配に行く時に弁当を持っていったり、惣菜を持っていったりといった、そういうパターンを組んでいます。

それから、医療とつながる仕組み。この3つが、実は、非常に青森県の郡部の課題として大きくて、そこを何とかしないと、町村だけではできないようなところになります。そこをどうやって進めるかというところで、地域の社会福祉法人が応援してくれています。

地域貢献ということで、100円バスを出してくれたり、いろいろなことをやってくれています。

その辺を含めて、どのように努力していくかということなど、話をさせていただきます。

そして、最後の1つなんです。ファームステイを、震災の前後も含めて、県内でも500近く、そういう農家民泊の仕組みを作っています。それがあって、県外や、台湾といった海外から、たくさん来てくれていたんですよ。新幹線の駅ができる時、当地域でも働き掛けたんです。ただ高齢化で、農家民泊やっていくというのもきついなというところもあるかと思います。他地域は、今、世代交代が始まっていて、もう20年近くそういう農家民泊をやって、ノウハウを蓄積しています。今、また復活させるべく頑張って修学旅行などが来てくれるようになっていきます。台湾からも「来たい、来たい」って言ってくれています。

そういった部分等含めて、それぞれ担当課から話させていただきます。

(東青地域県民局地域連携部)

柳谷さんには、いつも東青地域のためにいろいろ活動していただいております。

本日は、蟹田駅の利用者が増えるようにというお話でしたので、その件について、私から少しお話をさせていただきます。

まず、東青地域には、2つの新幹線の駅があります。また、フェリーなど、ターミナル機能を持つ青森港、そして蟹田港。さらには、国内外からツアーの玄関である青森空港など、陸海空の交通拠点が集まる交通の要衝です。

中でも、この上磯地域は、龍飛崎や高野崎などの半島ならではの豊かな自然を有しており、また、世界遺産、北海道・北東北の縄文遺跡群を構成する大平山元遺跡に代表されるような歴史・文化資源にも恵まれた素晴らしい地域だと思っております。

東青地域県民局では、こうした東青地域をツウな魅力のある地域と捉えまして、東青津軽はツウがあるというコンセプトの下、「ツウ軽」というハッシュタグでSNSを使った情報発信を強化し、旅行先としての認知度向上に努めているところです。

また、蟹田駅は、この地域の活動における重要な交通拠点でもあり、過去には、トゲクリガニの駅長がいたことも記憶にあるところです。

さらには、駅周辺には、この地域にしかない観光の魅力、例えば、地元民ガチャとか、地域住民に愛されるお店など、魅力のある場所がたくさんあります。

私共としましても、こうした観光資源を活かしながら、上磯地域への誘客促進に向けた取組を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### (交通政策課)

先ほど、蟹田駅のホームについて御意見をいただきました。私も、先ほどの階段の写真を見た時に、実際にその階段を前になさった場合、写真で見るよりも、すごく高く大きくてそびえ立っているようなイメージではないのかなと思って、それをお上りになるということで、膝とか腰とか悪い方もいらっしゃると思います。それを考えると、大変心苦しいというか、柳谷さんと同じ気持ちになりました。

J Rに確認したところ、蟹田駅は、信号施設の関係上、1番線と2番線が青森方面への上り、3番線が三厩方面への下りとなっており、青森方面から来て、蟹田駅で3番線に降りた場合、駅の出入り口に行くには、連絡通路、階段を昇った上で連絡通路も通らなければいけないという構造になっております。

J R東日本の青森支店によると、改修に際しては多額の費用がかかるとのことであり、現時点では、改修の予定はないという回答でしたが、県としましては、これまでもJ Rに対しては要望して参りましたので、引き続き粘り強く働きかけていきたいと思っております。

また、平館地区の津軽半島地域の交通弱者の方への支援のお話もいただきました。

県としましては、高齢者の方から子ども、学生さんに至るまで、それぞれの方々の移動ニーズに対応した地域公共交通を維持・構築していこうと取り組んでおります。

地域のきめ細やかな移動ニーズに対応するためには、地域の実情に精通している市町村が主体的に検討を進める必要があると考えております。

地域公共交通をどのように維持していくかなど、地域公共交通計画の策定に向けて、外ヶ浜町さんが、今、検討を行っているとお聞きしております。県としても、こうした取組に対して、例えば、県から専門のアドバイザーを派遣するなど、側面支援を行い、市町村と一緒に取り組んで参りたいと考えております。

#### (誘客交流課)

私からは、県外からのお客様の観光の取組を少し紹介させていただきたいと思えます。

誘客交流課では、市町村、交通事業者、観光団体と一緒に陸奥湾沿線誘客宣伝協議会という団体を作っております。こちらで、この地域の誘客促進を図る取組を行っております。

平成30年からは、陸奥湾沿線ガイドブック「本州最北の旅」というガイドブックを作りまして、J Rの駅や首都圏でもPRして参りました。

また、首都圏の主要駅でイベントやPR活動などを行ってきた他、今年度は、7月から9月にJ Rで、北東北3県の大きな観光キャンペーンを行っており、その中では、臨時列車が走的过程中この協議会のメンバーでお出迎えをしたり、そういう活動も行ってきたところです。

また、私も県内の旅行会社を訪問しながら、旅行商品、ツアーをしていただくような働きかけ

をするなど、いろいろ PR してきています。あとは、是非そのツアーを売ってください、販売してください、お客さんを連れて来てくださいというセールスをしていく中で、例えば、龍飛への立ち寄りですとか、むつ湾フェリーを利用した、津軽半島、下北半島を巡るツアーが非常に人気ですので、さらにこのコースを是非巡っていただいて、こちらの地域にも足を運んでもらうような働きかけを今、しているところです。

また、旅行会社とは別にいろいろな企業等への働きかけということで、本県と関わりのある首都圏ですとか、関西、中京、九州などの企業の場所をお借りして、社員の方々に、この東青地域も含めて、様々本県の観光情報と物産の販売を行っております。

その機会を通じて、社員の方が直接青森の魅力を発信して、是非、青森のファンになってもらおうということで、機会があれば、また青森に来てもらうようなお話をするなど、直接そういった活動もしております。

また、先ほど、本州最北の旅というパンフレットを御紹介しましたが、紙媒体から、ネットの方でも情報を発信しようということで、JR系列の会社の観光のサイトに「あんとりっぷ」というサイトがありまして、こちらに、今回は、陸奥湾沿線の市町村の情報を特集でいろいろ記事を書いていただきましたので、機会があれば、是非、御覧いただければと思います。

今後も引き続き、各エリアの旅行会社へのセールスなど、積極的に展開して、東青地域にもお客さんが来てもらうように旅行商品の造成などを働きかけていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### (構造政策課)

ファームステイ関連について、説明をさせていただきます。

農林水産業を観光資源として活用していくことは、農村の活性化につながっていきますので、ファームステイ、我々は農家民宿と呼んでいるんですが、県では、農家民宿の開業、そして経営の強化に向けた取組を支援してきました。

県内の農家民宿の数、平川ですとか南部町を中心に、高齢化が進んで、実は減ってきているんですが、県内で農家民宿、今、375軒ございます。国内外からたくさんの旅行者が訪れているわけですが、先ほど、知事からも言われたとおり、特に海外からは、台湾からの教育旅行も多く、増えてきているということです。

東青地域も農家民宿はあるんですが、数がまだ少なくて、今は10軒です。ただ、果樹や野菜を収穫できる観光農園があったり、県内有数の蕎麦の生産地でもあります。

ここ、外ヶ浜町もあまり知られていないんですが、にんにくや夏秋いちご、様々な農産物を生産しておりまして、漁業も盛んな地域です。農家民宿を開業するにあたっては、豊富な地域資源があると考えられます。

このため、県では、農家民宿の開業を希望する方を対象に、引き続き研修会を開催していくほか、ネットを活用した情報発信も強化していきたいと思っております。

柳谷さんと一緒に情報発信していければと思っています。

また、農業、漁業を志す方、新規参入を希望する方につきましては、技術習得のための研修会も開催しております。こういった方面からもバックアップしていきたいと考えております。

(知事)

他地域は、400近くなっているんですが、当地域は、どうしても上手くマッチングできなかったんですよ。すみません。

(柳谷志野氏)

いえいえ。これからも諦めずに頑張りたいと思います。

(地域活力振興課)

コロナ禍にありまして、地方回帰が高まってきて、皆さんの価値の基準がすごく変わったんだなということを感じております。Uターンして、リモートワークする人もいれば、こちらには御縁がないけれども、青森県の自然と豊かさに惹かれてIターンで来る方もいらっしゃいます。

そういう意味で、まだまだ潜在能力があると感じております。

今、県としては、圏域の方にどのような形でもいいので、コンテンツ開拓できないかということで、お金の面で圏域に支援しています。実際、今、東青圏域のリモートワークのコンテンツ開発に支援しています。実際、学生さんも関わりながら開発しているようです。まだ、試行錯誤の段階ですが、そういった、普段、私たちが気付かない魅力ということを学生さんを交えながら、首都圏の方につなげていって、それから移住につなげていければと考えております。

また、今、お話を聞いていて、やはりそういったことをやっているということ自体を地元の方にきちんと伝える必要があるんだなということも改めて思いました。

受入側の問題ということもあると思いますので、そういう意味で外から来る人たちを追うだけではなくて、受入側がどのように受け入れていくのかということが大事だと思いました。

(知事)

少し補足します。

フェリーは、本当に足回りは丈夫で、いろいろなことに活用できるので使っていかななくてはいけないなと思っているんです。船長も機関士もそうですけど、そういう人たちが集まって、この船を活用して面白くいろいろやろうって、そうなって欲しいです。

国道280号線は、高規格道路ではないけれども、船につなぐために作ったわけですから。

この地域には大いに期待するところがあります。

(田中利明氏)



私は、祖母の死をきっかけに、4年前に社会福祉協議会に転職しました。社会福祉学の学習もしていたので、転職と同時に大学の通信教育学部に入学して、現在に至っております。

社会福祉協議会では、住民主体というのは何なんだということを日々、問い続けています。本当の住民主体というのは、どうやったら作られるのかということを考えていて、住民主体に似たものは作られやすいんですけど、本当の意味で住民が主体になるもの、それを創り出す取組について、お話をさせていただきたいと思います。

上磯地域の生業と暮らしということで、高齢化、核家族化が蓬田村は進んでおります。一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯も増えている。地縁組織である老人クラブや、民生委員も同様に高齢化が進んでいて、例えば、除雪支援なども地縁組織でやっていくのにも限界がきています。蓬田村でも、東青地域全体としてもそうだと思います。

そのことによって、移動支援や生活支援、除雪支援、そういう困りごとを住民は抱えています。

コロナの影響は、人とのつながりを希薄化させると言われていますが、核家族化、高齢化も同様につながりを希薄化させています。

「私、困っているんです。だから助けてください。」と言うことすら妨げることになり得るわけです。

本当に高齢化、核家族化の影響で、人とのつながりが希薄になるというのは、そういうところにも影響してきていると、日々、住民の方の声を聞いて思っております。

そこで、蓬田村社協では、生活課題を抱える高齢者の多い地域で、支えられる側、支える側の関係を超えた絆が、地域に根付く必要があると強く思っています。蓬田村社協は、役場の方と協働して、ボランティアの仕組みが2つ作られました。蓬田村役場には、住民の想いに寄り添った仕事をしている方がおまして、その方と協働で、この2つの仕組みが作られました。

一つは「たすけあい交通」移動支援ですね。もう一つはボランティアによる除雪やごみ出し作業になります。

実績ですが、今現在、12人のボランティア活動者の方がいて、令和3年度登録者数95人、利用者数601人、運行回数397回。相乗りでの利用が多いです。住民の方が声を掛け合って「一緒にいくべ」と。「髪、切りにいくべ」「買い物にいくべ」と。相乗りされることが非常に多いのが特徴です。

先ほど、蟹田駅のこともありましたけども、高齢者の方は、買い物をした大きい荷物を持って、駅に降りて、自宅に帰るのが困難なんです。それが、この移動支援が作られることで解消されたという住民の方から意見をいただいております。

次は、除雪に関する支援です。実績は、活動者数5名、利用者数10名、日数34日。ニーズ調査した時は、直接の困りごととしてはとても多くて、「一人暮らしです。除雪で困っているんです。助けてください。」という回答がたくさんありました。しかし、実際にこの支援の仕組みを作っても、実は、その困っているから助けてくれという要望は増えませんでした。自分から助けて欲しいと言わなくても、例えば、民生委員さんやご近所さんが皆でやってくれているんです。皆から助けてもらっていたんです。実は、地域共生しているんです。

しかし、ニーズ調査では、それが困りごととして出てくるという矛盾が生じていることが分かったんです。

実は、その暮らしている方は、気を遣っていて、除雪のお礼に1万円、2万円払ったり、缶ジュースやビールをケースで買って渡したり。そういうふうにならぬ間に助け合っているという事実を発見するに至っております。

住民主体で助け合うというのは、非常に難しいなと思う中で、移動支援は病院、買い物、もう1つ、集いの場に通うことができる1つの手段になったことで、生活範囲を広げるといふ大きな役割を果たしました。外出支援によって、人とおしゃべりして、一緒にご飯を食べる。生活範囲が広がったことでフレイル予防につながりました。役場の保健師さんにも、人とのつながり、社会とのつながりがフレイル予防の入り口だよと言われてました。

社協でも、ちょっと見方を変えることにして、実は、移動支援、除雪支援というのは、人とのつながりを支援しているんじゃないかという見方をしてみることにしたんです

左側の写真は、移動支援、たすけあい交通を使って相乗りでおばあちゃんを誘って美容室に行ったところです。このように利用されています。

美容室では、おしゃべりすることで、心の健康づくりになっている。生活範囲が広がること、プラス人とのつながりが作られるダブル効果です。

右側の大きい写真は、自然な人とのつながりです。畑には人が集まって、そこで世間話や世の中のニュース、夫の愚痴を交わすわけです。それが、また、心の健康づくりになっていて、私は、真ん中でスイカを食べさせてもらったんですけど、本当に、そのスイカ1つで、人とのつながりが作られているという事実を発見しました。

この方々は、今、援農ボランティアに参加していただいております。自然なつながり、プラス自然な介護予防です。

援農ボランティアで活動されている方は、「ボランティア返し」だと言って、除雪支援に参加して下さっている。住民主体というのは、何かを作るのではなく、自然なつながりの中で相手を気に掛ける気持ちが栄養になって、自然に行われる行動、それが住民主体だと思っています。

移動課題を解消しなければいけないということは、全国的に言われています。蓬田村の場合は、公共交通機関が少なく「たすけあい交通」ができましたが、お金を目的にしているのではなく、この運転手の方が、支援を受ける高齢者を気に掛ける気持ちで、何とか現在まで2年半ぐらい続けることができている。

つながりを支援するというのは、非常に大切だと思っています。援農ボランティア、除雪支援、移動支援、お金払います、有償です、景品支給されます、だけでは支援は継続されず、ボランティアの活動者のモチベーションにもなり得ないと思っています。その先には、つながるというものがあって、それから人が気に掛け合って支え合う、それが自然な住民主体だと思うので、社協では、東青地域県民局地域連携部さんと村役場と協働して、そのつながりを支援する年齢・世代問わず、身体状況問わず、気楽に集える常設の通いの場を来年の1月オープンに向けて、今、進めているところです。

その場は、自然なつながりが保たれ、気に掛け合うことが促進されて、住民主体が作られる。自然に介護予防が促進される。介護予防になるメニューとして、お茶飲みや健康麻雀、健康観察しながらの体操、eスポーツ、こういったメニューを揃えて、あとは住民の方々が主体的に人とのつながりで声を掛け合って参加して、また、自分たちで作られる場ということにも重きをおいて、これから取り組みをしていきたいと思っています。開設された際には、是非知事にもお越しただけたら嬉しく思います。

(知事)

あちこち行って、eスポーツでも勝負を挑まれています。

(田中利明氏)

そうですね。

高齢者だからゲームがやれない、スマホ使えませんというのは、周りが勝手に考えていることであって、実際、その場にメニューがあればやれると思います。

そういう場所をまずは作ることを県や役場と協働で進めていきたいと思っています。

ありがとうございます。

(知事)

地域共生のため、集いの仕組みをそれぞれ市町村あちこちに作って、実際、集っていたわけです。

ところが、コロナの拡大のせいで、集いを一切禁止せざるを得なくなり、非常に順調にあちこちにできていたのに残念です。

上小国は知ってのとおり、夜は泊まってコンサートやるなど、いろいろなおもしろいことをやって、木工品を作ったり、高齢者も子どもも若者も集まっていました。

地域ごとにやっていたのが、ストップをかけざるを得なくなった。

でも、今後は集いをどんどんやっとうと、改めてスタートすることになっています。

今、本当にフレイルで困っています。認知機能と、実際に体を使わないものだから筋肉が固まって動けなくなったりしています。eスポーツなどで指と目を使うことで改善してこう、ということこれからどんどん仕掛けていくということを考えています。

集いの仕組みを継続していくことで、応援してくれる人がたくさんいて、郡部の良いところはそういうところですよ。

また、社会福祉施設の人たちが、全面的にいろいろな場面で協力するという体制は整ってきています。その辺のことを、担当課から少し話させていただきます。

(健康福祉政策課)

先日は、移動支援の視察にお邪魔させていただきました、大変ありがとうございました。

地域共生社会を実現させるためには、居宅支援サービス等、勿論、行政が事業を行う部分もありますが、田中さんが仰るように、やはり住民主体で動き出す活動ということが、重要になってくると思います。そのためには、お話にあった集いなど、住民の困りごとを自由に話せる環境というものがすごく大事になってくると思っています。

田中さんのような方が、社会福祉協議会で、失敗を恐れずに新しいことに取組んでいくことが蓬田村全体にとって大変大きい力になっているなど感じているところです。

県としても、健康福祉部だけではなく、企画政策部や県民局など、分野を超えて応援していきたいと思っております。

(地域活力振興課)

9月には、東通村と私共、それから移動の関係ということで、交通政策課も一緒に視察に行かせていただきました。

ボランティアの方や利用者の方、それぞれの立場でのお話を聞くことができ、東通村では現在、自分たちの地域では何ができるか考えている状況です。

9月にお話を聞いた際、たすけあい交通の仕組みはマッチングが大変だろうと、私たちは思っていました。移動の希望者とボランティア運転手の方々の日にちを合わせたりするのが大変だろうなと思っていたんですが、田中さんが、「私たちは手間だけを掛けるんだ」と話していたのがとても記憶に残っていました。今日、またお話を聞いて、改めて、移動だけではなくて、人とのつながりをつくっていくという気持ちをすごく感じました。

あの時もチームとして行きましたけれども、今後も県としては、いろいろな生活に関係するそれぞれの部局が一緒になって地域の課題に取り組んでいくことにしていますので、地域の声を吸い上げるための、一番最前線にいらっしゃる田中さんに、これからも御協力をお願いできればなと思っています。

(東青地域県民局地域連携部)

田中さんには、日頃から住民のニーズを聞いて、それに応えた活動をしていただいて、いつもありがとうございます。

県民局としても、地域連携部、地域健康福祉部、地域農林水産部が一体となって、青森県型地域共生社会の実現に向けて取り組んでいるところです。先ほど、お話もありましたが、今回、田中さんから、こういう事業を一緒にやりたいという熱い想いを聞いて、集いの場でもあるねまるカフェを実現できたことが、本当に嬉しいと思っています。

この取組を通じて、是非とも住民がつながって、住民が知恵を出しあって、世代を越えたつながりが実現できるような、そういう社会になればいいなと思っておりますので、引き続き一緒にやっていきましょう。よろしくお願いします。

(知事)

保健師さんが、コロナで他に関われない状況です。それ以前から、事務的な業務ばかり多くて、現場に投入できなかった状態が、市町村でも続いていて、この地域共生を進めるにあたって、地域の社会福祉法人等にシフトして進めるようにしたわけですが、田中さんのように、現状と課題がきちんと見えていて、まずやらねばという人が動いてくれると、我々もすごく応援しやすい。本当にこの10年近く、地域共生ということはずっと言ってきましたが、最初は全く見向きもされなくて、全然うちは大丈夫ですって。大丈夫じゃないんですけどね。10年経つと、必ずそうなりますからって。今、そうやってきたところにこのコロナで三重苦というか、益々大変なんです。

でも、これから、コロナが落ち着けば保健師さんたちも戦力になってくれる。

それから、中泊においては、地域看護師を回らせて健康観察もやっています。

このように、輻輳的に段取りをしていきますが、まず、元気な人がもっと元気になるためには、集まって、何かやってくれないかということなんですよ。

あと、歩いていくとか、目使う、指と目、使っていくと、かなりいいですよ。

明の星高校とか、高校生達がeスポーツで勝負するって言ってくれています。

(地域活力振興課)

この前、今別で80歳、90歳の方たちと交流をさせていただいたのですが、町外の人間がいろいろ話をしていくことで、お婆ちゃんたちが持っている潜在能力みたいなものを引き出せたというか、蘇ってきた沸き立つようなパワーを浴びることができて、それがすごく嬉しかったですね。

ねまるカフェが、もっと圏域に広がっていけばいいなと、今、お話を聞きながら思いました。

(東青地域県民局長)

本当に田中さんの取組は、こちらの圏域の中でも広がってくればいいなと思って、県民局で地域連携部と地域健康福祉部、地域農林水産部とスクラムを組んで応援させていただきますので、こういう展開を我々の方で支援させていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

(知事)

県民局はやりますので、今までもずっとやってきたからね。

(周布祐馬氏)

今、地域活力振興課から話のあった茶めしに関する集まりをつい先週、地域活力振興課のメンバーにも来ていただいてやったんですけど、そこで、85歳と91歳のお婆ちゃん、先生になってもらって、東京とか関東、関西から来た何人かの若者に教えてもらうということをやりました。そうしたら、帰る時に、お婆ちゃんが「次、いつやるの?」「また呼んでね」って言ってきて、それを聞いただけで感無量ですよ。



(知事)

70歳、80歳で荒馬パワーが蘇っているわけですよ。  
そうだ、私たちもこうやって昔やったと。

(周布祐馬氏)

そんな感じなんです。今別の荒馬の写真が出ていますが、実は半分以上が県外の若者です。彼ら、彼女たちが地域の子どもたちを含めて、良い影響を与えていて、実際に僕が20年前から今別町にお世話になっているんですが、当時、子どもだった、小学生だった女の子たちが、今、まさにこの茶めし作りを一緒にやったんです。大人になって、栄養士として。

そういった形で、20年前の子どもたちやお年寄りに対して、こうやって関係人口の人たちのパワー、想いを伝えると、やはりそれが刺激になって、地域の人たちのパワーが蘇ってくるということが肌で分かっていく。それを僕だけじゃない、参加している大学生とか若者、皆、それを感じているので、この大川平という地区ですけれども、ここだけではなく今別の他の地域も含めて魅力を感じて離れなくなるというようなことが、今、起き始めています。

今、写っているこのメンバーが中心になって、荒馬以外でも地域に貢献できるような活動をしたいということで、「おおかわだい好き大作戦」という、任意団体ですけども、作って、地域のしめ縄づくりとか、行事にも積極的に参加をするようになっていました。去年の冬ですけども、私も、実際参加して、本当にお年寄りばかりなんです。

(知事)

君たちがいないと、超高齢化しちゃう。

(周布祐馬氏)

そうなんです、ここも超高齢化して。こういったところでお手伝いをしながら、僕たちが行くことによって、地域の若者も参加しやすくなるような、そういうきっかけになるといいなと思っていました。

この「おおかわだい好き大作戦」で、実際に今やっている具体的な活動がありまして、これは、空き家を、床の下に断熱を貼っているところですけども、空き家のリノベーションを地域の人たちと関係人口、県外の人たちと一緒にやって、居場所を作ろうというようなことをやっています。

(知事)

断熱材をちゃんと入れて、足が冷たくないようにして。

(周布祐馬氏)

こういうことを通して、地域の人と関係を作りながら、実際、自分たちが使う場所、居場所というものを作っていきこうというところから、少しスピードはゆっくりなんですけど、徐々に、徐々にやっていくというようなことを、今、始めています。

これは今年の9月の終わりぐらいのマルシェの写真です。今別の特産の一球入魂かぼちゃというものです。もう、実は農家さんが残り1軒しかないんですけど、そこのかぼちゃを使って、なくしちゃいけないということで。

(知事)

そうか、一球入魂も一人だけになったか。

(周布祐馬氏)

そう、一人だけ、一球入魂が、一人入魂になっちゃって、本当にそうなんですよ。すごく美味しいんですけども、そうってしまったので、このかぼちゃというものを少しでも多くの人に知ってもらいたい。あとは地域の方々に対しては、こういった調理方法があるよといったことで、有名な京都の知り合いのカフェや青森市内のお菓子屋さんに来てもらって、マルシェを通じて、地域の人たちに喜んでいただきました。

私自身、こういった活動を通して、地域プロジェクトマネージャーとして今別町に採用していただいて、8月にまちづくりの商社を作っています。今、地域プロジェクトマネージャーと、まちづくり商社の代表という二足のわらじで、実際、今別を中心に外ヶ浜、蓬田、あとは中泊という、津軽半島一体で、地域の人たちとの活動というのを始めたところですね。

マルシェもそうですけども、先ほどお話しした茶めしのプロジェクトなど、本当に今、地域活力振興課の皆さんには、すごくお世話になっていて、折にふれていろいろ御支援をいただいています。ありがとうございます。

(知事)

ありがとう。そう言ってくれると、喜んで皆、働く。

(周布祐馬氏)

最後に県の皆さんと取り組んでいきたいことが、こうやって見ていただくと分かる通り、僕は人に着目した活動にすごくこだわって続けているんですね。何でかという、とにかく担い手が少なすぎるんですね、今別とかこの辺の地域というのは。

なので、とにかく担い手になってもらう人を増やしたいということなんです。それは、町に住む人たちだけではなくて、関係人口の方々が、別に移住しなくても担い手になれると思っているので、そういった方々にも気軽に、もっと担い手として地域で活躍してもらいやすくなるような仕組みを作りたいと思っています。

(知事)

通いでいいわけだものね。

(周布祐馬氏)

そのためには、やはり今別とか、この地域のことを知っていただく必要があるので、観光を起点に住民と協働できる環境を作っていこうと思いました。

そこで、県の皆さんにお願いしたいのは、マイクロツーリズムを今、考えています。バスで来る観光というのは、もう時代遅れというか、コロナもありますし、なかなか受け入れられない部分もあります。あとは、受入側が、バス1台で10人、20人とか来られても対応できないんですよね。91歳の方じゃ無理なんですよ。

そこで、家族単位でマイクロツーリズムということで、家族とかグループの人たちを対象に観光コンテンツを考えていこうとしています。そこに情報発信ですとか、先ほどの旅行会社のお話がありましたけども、そういった面では是非御協力いただきたいということ。

あとは、実際にここに来ていただいた人たちに、まち歩きをしていただきたい。まち歩きを通して、地域の人たちに触れ合っていたいただきたいと思っているんですが、そういった時に、やっぱり危ない、歩いていて。国道なのに、車道を歩かなきゃいけないところがいくらかもあって、このプロジェクトの時も実際に参加者に歩いていただいたんですけども、国道をフィッと横断しないといけない。そんなに車は走っていないんですけども、車が走っていない分、スピード出してくるんですよ。なので非常に危ないなというところが、至るところにあります。

なので、高齢者の方々が歩くという面においても、地域住民にとっても、やはり歩道整備というか、歩行者への安全対策というものも少し考えていきたいなと思っているので、そのあたり御協力をいただければなと思っている次第です。

(知事)

ありがとう。

荒馬以来の付き合いでよく来てくれた。このコロナの3年間は、人と人が手をつないで元気を出そうという、それができなくなった、とにかく集まると駄目。手を掴むのは特に駄目でしょう。

ということがずっとあったんだけど、そこをどうこれから乗り越えていくかということが大事です。

また、新幹線の駅があることで、結構、通学に良くなったと言われます。ただ、これが観光も

含めて、関係人口にどうしてつながっていかないかと。

マイクロツーリズムでも話がありましたが、農家民泊等ができなかったのがすごく痛かった。新幹線ができる時に何としても増やしたくて。県南でも津軽でも最初は少なかったけれど、担い手となる高齢者を集めて次第に増やしていった。その人たちも今は80歳、90歳になったけれど、次の世代が育っているから引き継がれています。

あの農家民泊のパターンが成り立つと、関係人口として、一旦来れるわけです。夏はいつも今別へ行って荒馬、観ますよとか。裳月海岸に行ったりするのもいいわけです。

マイクロツーリズムにおいても、3～4日から1週間程度、あるいは一定の長期間滞在させるような、物語性のあることが大事です。

周布さんが来てくれて、いろいろな仲間を集めてくれて、その中で拠点的な家のような施設を設置するといいと思っています。

だから、荒馬文化に接してくれた人たちが、また、次の世代、結婚して子どもさんができてまた来てくれるとか、そういう方向にどう持っていけるかというのが町を挙げての勝負だと、実際思っています。

そこを県民局等含めてどう支援していくかということになるので、地域活力振興課から話をします。

#### (地域活力振興課)

日頃から、本当に周布さんには大変お世話になってありがとうございます。

今、関係人口の呼び込みということと、地域の担い手研修ということで、御協力いただいているところです。いろいろ気づきがありまして、北海道新幹線が開業する時にコンテンツ開発の話がありましたが、その時に「カワラケツメイ茶」という言葉、聞いたことがなくて、私は野辺地のものと思っていたんですが、そこには、実は北前船の流れがあったということ、今別町の方から聞いて、それを取り上げて、これをテーマにしてやろう。そして、80代、90代のお婆ちゃんたちからノウハウを貰おうというふうに手を挙げてくれたのが、町であり周布さんでありということに感謝しています。

実際に参加してみると、元々、今別大川平が荒馬の保存地区ということで、地元の人たちは、担い手として外の人と関わってきたんですが、その人たちが成長して、大川平に限らず、町のために何かしたいということで動いたということは、すごく、素晴らしいことだなと思って、本当に「人」だなと思いました。

また、青森市内の高校生も担い手研修に来てくれたのですが、その時も知事の出前講座に参加した子で、刺激を受けたので、是非私も何かやりたいと言ってくれたことにすごく感謝しております。

今別町は、関係人口の先駆者だと思います。大川平の荒馬から始まり、裳月という平均年齢70歳の40人の集落のところに広がり、また9月に、蓬田村に関係人口の方が周布さんと来てくれました。20年間今別町に通っていても、蓬田村に来たことがなかった。温泉も知らなかった。トマトも知らなかったということもあったので、市町村に捉われず、圏域でもっと広く、津軽半島と一体で、バトンを渡すように広がりをもたせていけるような取組を一緒にできればと思っています。

#### (交通政策課)

先ほど、マイクロツーリズムの誘客ということで、交通アクセスなどの向上というお話をいただきました。

その中で団体でバスで来られるというよりも、例えば、家族単位や個人単位といったところにも情報発信、交通アクセスに関して何かないかというお話もあったかと思います。

県では、あおもり旅マップというポータルサイトを開設しております。

こちら、どういうものかといいますと、鉄道やバスなどの地域公共交通を活用して、観光客の方などが県内を周遊できるように、出発地と目的地を入れていただければ、瞬時に観光情報、経路、そういったものが出てくるというものです。

外ヶ浜町には、北海道・北東北の縄文遺跡群、17遺跡のうち、最も古い大平山元遺跡が所在しており、縄文が大好きな方は、必ず訪れたい、聖地のような場所と言われており、本遺跡も掲載しております。

観光情報と目的地までの乗り換え情報も掲載して、地元にあまり詳しくない方もスムーズに移動できるように、こういったポータルサイトを準備しております。

引き続き、誰もが移動しやすい、利用しやすい公共交通という環境を整えていきたいと考えております。

#### (誘客交流課)

私は、マイクロツーリズムについて少しお話をしたいと思います。

まず、近場を対象にしたマイクロツーリズムの取組について、ここ数年、県でも取組を進めております。コロナ禍が始まってから、やはりなかなか遠くからお客さんが行ったり来たりできない中で、県内ですとか隣県とか、近いところからのお客さんをしっかり呼んできて、青森県内でもなかなか行ったことがない地域、結構あるものですから。そういったところを掘り起しながら、新しいお客さんを掴んでいこうということで、様々なマイクロツーリズムという取組をしてきました。

その中で県民向けの情報発信だとか、町村会などの取組を含めて、様々な地域の魅力を発信するという取組を、今年してきたところ です。

いろいろな情報番組で情報発信したり、メディアを使った発信などもしてきました。周布さんのお話を聞いたところ、もっともっと関係人口というか、人と人とのつながりの中で人に来ていただくということのお話もあったかと思うので、そういったところでは、実は、一般的な旅行会社とはちょっと違う、例えば、地域でお手伝いをしたい方を募って、ツアー化して、地域に行ってもらったりとか。あとは、地域に面白い人がいるよということをキーにして、仲間とそこに遊びに行くことをつないでいくような旅行会社とか、そういうところも出てきております。そういった地域のいろいろな取組を、我々も県外セールスの中で関係を作りながら、何か地域の方に人を集めるようなつながりが持てればなと考えております。

その辺も、また、情報や取組が見えてきたら、上手くつなげればいかなと考えています。

#### (東青地域県民局地域連携部)

地域連携部では、今年の事業として、関係人口を増やす取組の中で、先般、青森中央学院大学の生徒さんから提案のあったワーケーションを実施しています。そこでは、東京の大企業の方々

に実際に来てもらって、管内それぞれの地域をぐるぐる回りながら、回遊するワーケーションというものを、やってみているところです。

こういう取組も、また関係人口につながるものの1つだと思っておりますので、地域の良さをどんどん外にアピールして、良い形で東青の関係人口増加につなげていきたいと思っております。

引き続きよろしく願いいたします。

(周布祐馬氏)

いろいろありがとうございます。

旅マップのお話がありましたが、実際使って旅されたことがありますか。この東青の津軽の方とか。

今、奥津軽いまべつ駅から龍飛岬を調べたんですけども、そこには高野崎が出てこないのですよ。龍飛岬は見たんですけど。

この旅マップは、自治体などのホームページに飛ぶような作りになっているんですね。

例えば、外ヶ浜町営バスのホームページの時刻表に飛ぶような作りになっています。こうなると、やっぱり使いづらいので、実際に使われなくなってしまいます。

ですから、どういう利用者を想定するのかということまで考えた上で、こういったものを作れたら、より使ってもらえるようなサイトになっていくのかなと感じました。

その他の施策に関しても、ワーケーションの事業なども、今のワーケーションの事業は、例えば、今別に着いたら、今別の中身をいかに楽しんでもらうかということですよ。では、平内から今別への移動はどうするのでしょうか。実際、ワーケーションの体験してもらった後、移動手段をどうするかということも含めて考えていかないと、なかなか実現しないのではないかと思います。それも利用者の立場に立つ話になってくると思います。

そういったところも含めて、受入れ自治体側、もしくは県民局さんと一緒になってお話し合いができたらいいなというふうに感じたものですから、そういったことを考えていただけると嬉しいなと思います。

(知事)

アドバイス、ありがとう。

着地型って言っていますが、現地着地型でみないと、実際は、活用されないということになるということを書いてくれたんだと思いますので、是非、心していただければ。

最初に話をしましたが、いろいろな変わり目に、この3人が、この地域にいてくれたことに本当に感謝したいと思っています。

今、尖がっているって言う用語がありますが、荒馬のような文化が残っていて、文化戦略やカルチャーツーリズム、それが、非常に重要な、青森のブランド化につながっています。価値としても最上級で、我々としては、絶対、これ、いいぞというものが、他から見ても、それすごいと言ってもらえることが大事になっています。どれだけ多くの尖がった価値を発信できるかという、持っている文化量の発信の戦いになってきたなということを感じています。

そういう意味におきまして、柳谷さんよろしく、頼みます。田中さんは、まさに現場型の福祉のあり方を提案してくれて嬉しく思います。周布さんは、関係人口というか、すっかり関係しち

やったということですので、私共、本庁の方もそうですけども、何のために県民局を置いたかっていうと、まさに着地型でいろいろやっっていこうということですので、連携してやっっていければと思います。

上磯、楽しみだね。よろしくお願いします。

ありがとうございました。

